

らさば別なものとして取扱はれなければならぬ。同じくアリストテレスのヒュシスにしても、アリストテレスのその語の使用の多様にもか、はらず——尤、見かけほど多様ではない——、哲學史上特にアリストテレスのヒュシスとして考へなければならぬものはきまつてゐる。それは「それ自身の資格で自分自身の中に働の始めをもつてゐるもの、本質」あるひは「かくの如き始めとなるもの」といふやうなものである。

また言ふまでもなく、彼等タレス以下の人々の立場が獨斷論であるか、唯物論であるか、主客の區別を知らぬ無邪氣な立場であるか、彼等の見てゐた世界が要するに今日の自然界以上に出ないか、ごうかといふ問題は、わざと「ギリシヤ語ヒュシスを用ひて」彼等のヒュシスは何であつたか」と問ふ場合の、そして以上に於いて吾々が問題として來たやうな、問題と混同さるべきではない。如何なる哲學史に於いても、前者だけの問題にわざと「ヒュシスといふギリシヤ語を用ひてゐるのは見られない。吾々の意味でわざと「ギリシヤ語を使つてゐるのは見られない。

新刊紹介

島地大等著 思想と信仰 一冊

明治書院發行
定價參圓五拾錢

故島地大等師は眞宗西本願寺派僧侶として近來稀に見る篤信

なる學者であつた。多年東洋大學教授、東京帝國大學文學部講師等の要職にあつて、佛教學界に多大の貢獻をした人である。その研究は鵜呑み込みの西洋の學問を基礎として、所謂新しい研究を佛敎上に試みたといふだけのものではない。十分に佛敎の古典籍をかみしめ、しかも印度學にも、西洋の學問にも深い研鑽をさげて新研究を試みられたのであるから、正統派の老學者の眼から見ても危険でなく、新進の學者から見ても困陋に陥らず、中正の大道を裕々として進んで行くやうな研究であつた。しかしこれだけなら必ずしも師の偉大な事を稱するに足りないこの程度の篤學者は世間に少くないからである。

師は前記の如く稀に見る篤信な人格者であつた。それは大正五年より現西本願寺派管長大谷光昭親下の輔育掛となり、一派内の重大なる使命を全うせられた事によつても、よく知る事が出来やう。されば師の研究は純客觀的に佛敎を研究したものではなく、その論究の底には、常に釋尊の遺法を篤く信じ且つ篤く行ふ僧侶たる自覺が強く流れてゐる。といふ意味は信仰の爲に事實を曲解したり、堅固異同を強ひたりした迹があるといふのではない。釋尊の遺法がともすれば現代によく理解され難いのを憂ひ、飽くまでも廣長舌を振つて之を世に弘めんが爲に、出来るだけの之を正直に素直に解釋し開明しやうと努力されたのである。

惜しい哉昭和二年七月病の爲に往生されたので遺弟の諸氏は相讓つて重要な遺稿を全集六冊に收めて出版されることとなつ

た。その第一冊として「思想と信仰」と題し、雑誌に寄稿された論文や、講演の筆記を収め年譜を添へて出版されたのである。凡て小篇であるから、十全の力を注がれたものではないが、却つてその中に師の面目が躍如として紙面に漲つてゐるやうである。私は近來この書ほど尊敬の念を以て愛讀した佛教書は無かつた。一々の論文をこゝに紹介する餘裕はないが、師の學問上の主張を最も端的に示された「佛教々學に對する懷疑」の要點だけは、こゝに紹介しておきたいと思ふ。師の觀察による、明治初年に西洋の學問殊に基督教が入つて來たので佛教徒は非常に恐れて、熱心にこれらの學問と宗教を研究した。その爲に佛教界は非常に活氣を呈したのであつたが、研究して見ると、案外詰らない。西洋の宗教や學藝の持つ内容は、佛教の中に昔から備はつてゐるを知つて、安心すると同時に研究心を失つてしまつた。さうして佛教々義を正しく一般に知らしめやうとはせず昔ながらの教義を、昔ながらの方法で布教を試み、何等の改造改善を施さうと企てなかつたので、佛教教徒の運動は可なり盛んであつたに拘らず、成功しなかつた。勿論不成功の原因としては、政府も社會も明治大正を通じて佛教を知らず、寧ろ迫害せんとしたやうな時代であつた爲でもある。しかし何と云つても佛教の不振は、佛教徒自らが新しい思想信仰を輕んじた點にあることは争はれない事實であらう。この觀察は必ずしも大等師を待つて始めて知るほどの珍らしい觀察ではないが確に佛教徒にさつて頂門の一針となすべきである。

最後にこの全集は裝釘に工夫を凝して、永久の記念とする事

が出来るやう出来て居り、かつ分賣を認めた點に於て、發行書店の努力を多きすべきものであると思はれる。

(高橋俊乘紹介)

彙報

哲學茶話會

六月二十二日(土)午後六時より、樂友會館に於いて、本誌所載の高坂正顯氏「二つの言葉について」(カントに於ける先驗的と實驗的)を問題として、談論あり。

印度佛敎學例會

六月十九日(水)午後六時より、學生集會所に於いて「佛敎々學の一體系としての世親唯識觀と其問題」稻津紀三氏

心理學讀書會

六月二十日(木)午後三時より、心理教室に於いて「The mind. Doughty. "The crownmind."」毛利就丸氏

倫理學例會

六月二十二日(土)午後六時より、樂友會館に於いて「プラトン倫理學の方法」小田清氏

社會學例會

六月二十一日(金)午後六時より樂友會館に於いて、高田保馬博士出席のもせに開催さる。

美學會

六月二十一日(金)午後六時より、樂友會に於いて「スポーツの快感に於ける Funktion の意味」中井田一氏